

秋田大学 高等教育グローバルセンターニューズレター

Vol.4
2021.3

GLOBAL CENTER FOR HIGHER EDUCATION NEWSLETTER

海外8大学と国際交流協定を締結



2020年1月～2021年2月までに、秋田大学では新たに7大学と大学間国際交流協定を締結しました。

■【学術交流協定】・【学生交換の覚書※】

- ・国立彰化師範大学（台湾）
- ・フィリピン大学ロスバニョス校（フィリピン）

■【学術交流協定】

- ・ザンビア大学（ザンビア）
- ・アサナリフ地質・鉱業・天然資源開発大学（キルギス）

■【学生交換の覚書】

- ・フェラーラ大学（イタリア）
- ・サンチアゴ大学（チリ）
- ・プルタミナ大学（インドネシア）

※【学生交換の覚書】

を締結している大学へは、「交換留学」が可能です。本学国際交流協定校の情報は、随時下記大学HPにて公開しています。

https://www.akita-u.ac.jp/honbu/inter/in_pratnership.html

研究者海外派遣事業（アメリカ）

教育文化学部 こども発達・特別支援講座
准教授 瀬尾 知子

2019年9月から2020年3月までの半年間、秋田大学研究者海外派遣事業により、アメリカ・ジョージア大学に客員研究員として在籍し、日本とアメリカの幼稚園での食事場面における、子どもの社会情動的スキルと保育者の関わりの関連について比較研究を行ってきました。

幼児教育において、日本とアメリカでは教育課程も保育者の関わりも異なっていると言われていますが、調査を通じて、2か国間の違いを肌で感じました。本調査では、食事場面において保育者の食べさせるという行為と、全員が食べ終わるまで待つという行為はアメリカの幼稚園では見られないことが分かりました。そして、このような保育者の関わりが、子どもの忍耐力や、他者との協働といった社会情動的スキルを発達させるうえで重要な役割を果たしているのではないかと考えています。

文化的な背景が全く異なる国との比較研究は、自国の幼児教育を捉え直し、自国の枠を少しずつ広げる機会を与え、国を超えて互いを理解し議論を深めることへと私たちを導いてくれるように思います。日本で生活している中で当たり前のこととして捉えていたことを再考すること、それは創造へと誘う扉なのかもしれません。



上：ジョージア大学附属幼稚園の食事場面の様子

下：ジョージア大学の受け入れ先の先生（Tobin教授）と（筆者右）



研究者海外派遣事業 (カナダ)

理工学研究科 システムデザイン工学専攻
機械工学コース 講師 関 健史

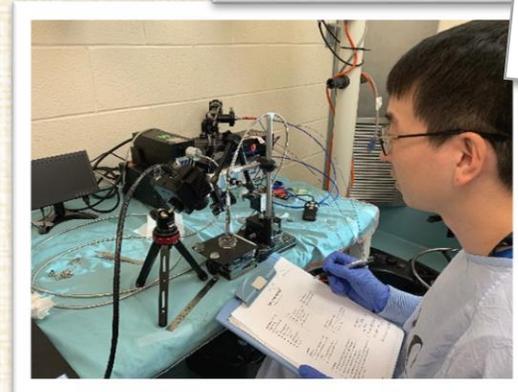
秋田大学研究者海外派遣事業により2019年9月～2020年7月までの10か月間、カナダ・トロント大学に研究留学させていただきました。

私が在籍していた研究室の安福 和弘教授は、トロント大学総合病院の呼吸器外科に所属されており、同大学の医学系、工学系の研究室や外部機関と共同で低侵襲診断・治療に関する研究をされています。

私の研究テーマは、『肺がんに対するナノ粒子を用いた温熱治療時の温度推定法』であり、本手法の有効性を検証することが主な目的です。本研究室では、医学・工学の研究者・技術スタッフ計9名が連携して実験することが多く、また、週1回のミーティングでは、メンバー間の専門の違いに関係なく活発な議論がされました。これらの経験を通して、研究方針に関わる重要なアドバイスが得られたことや、コミュニケーションの難しさ・重要性も再認識できました。

残念ながら、コロナ禍の影響による研究施設閉鎖で実験が中断してしまいましたが、メンバー間で励まし合いながら過ごした自粛期間も貴重な経験になりました。最後に、このような大変貴重な機会を与えていただきました本事業の選考委員の皆さまに深く感謝申し上げます。

研究者海外派遣事業の概要は大学HPにて公開しています。 https://www.akita-u.ac.jp/honbu/inter/in_teacher.html



上：実験試料を準備している様子
下：レーザー温熱実験開始前の様子

国際交流イベント:「ZOOM UP! MEET UP! ー多言語で話そうー」

2020年12月16日(水) 16:10～17:30 開催

今年度第1回目となるオンラインでの国際交流イベントを開催し、20名の学生が参加しました。日本語はもちろん、様々な言語によってコミュニケーションをとりました。

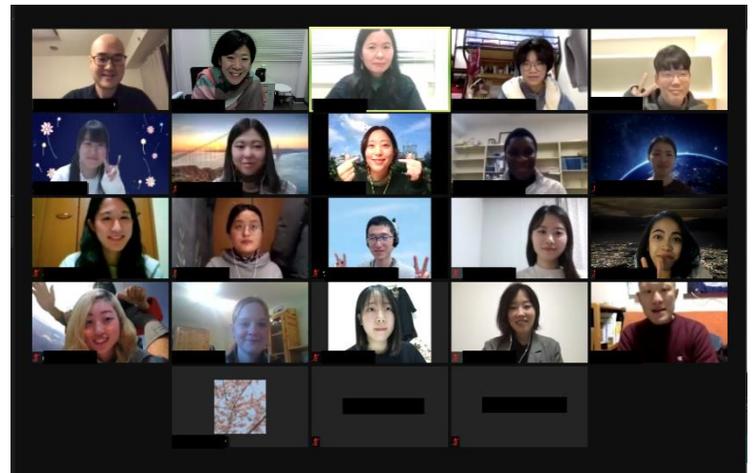
参加留学生の感想

教育文化学部 地域文化学科
4年次 梶原 唯華

今年はコロナの影響で、異文化体験や留学生と交流する機会が減りました。そんな中、今回のイベントではオンラインで様々な国出身の学生と様々な言語で交流を取ることができました。

割り当てられたグループのメンバー内で意思疎通できる言語を探し、その言語で与えられたテーマをもとに交流をします。例えば私のグループでは、お勧めのアプリや携帯の中の3番目に最近取った写真についてなど普段あまり話さない内容について話しました。

日本に来られない留学生がいる中で、日本や秋田について伝える事ができたのも良かったと思います。なかなか対面での交流が難しい中で、こうしてオンラインで異文化体験ができるイベントに参加できても有意義な時間を過ごす事ができました。



参加留学生の感想

理工学部 特別聴講学生
尹 海麟(ユンヘイン)

ZOOM UP! MEET UP!では参加学生達が短く2つの言語で自己紹介をすることで始まり、その後は小グループ活動で最近撮った写真とオンライン授業についてお話しました。すごく楽しい時間でした!

実際に日本に初めて着いた時は自分がどうして日本に来たのか、そして交換学生で何を成し遂げることができるのかに対する疑問がありました。

しかし、今回のイベントからいろんなイベントに参加しながら自分が交換留学生として日本に来た理由を見つけようと思っています。



令和2年度 秋田大学全学FD・SDシンポジウムを開催

2021年1月20日(水)、令和2年度全学FD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）シンポジウム「COVID19影響ストレス下における持続的な教育と研究のための心構えについて」をオンラインで開催しました。

本シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症の影響下で、どのように「持続的な大学教育・研究・学修を進めていくか」に対して、メンタルヘルスを含めた「こころの問題」や様々な制限のなかでの「行動の課題」を考えることを目的に実施されました。

本学大学院医学系研究科 野村恭子教授による講演（テーマ：秋田大学キャンパスの精神衛生向上に向けた新提案：自助と共助、共感スキルの活用）、本学教育文化学部 小池孝範准教授による講演（テーマ：ストレス下におけるモラルやTPOについて）が行われ、学生の心の健康を保つための取組や、学生の自律的な判断・行動を支える情報発信のあり方について、課題の共有と提案がなされました。昨年度までとは大きく異なった状況のなかで教育・研究を継続的に行うための様々な心構えを学び、考えを深める機会になりました。当日は、本学の教員・職員・学生および県内他大学の教員・職員を中心に、320名と多くの方に参加いただきました。

全学FD・SDシンポジウムの概要は下記大学HPにて公開しています。
<https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/divelop/fdsd.html>



専任教員からひとこと

高等教育グローバルセンター
講師 Ben Grafström

私は2012年に秋田大学に赴任しました。秋田大学はこの9年間で間違いなくグローバル化したと言えます。海外から来た学生や教員の人数は間違いなく増えましたし、英語、韓国語、中国語、フランス語等を話している人々の声をいつも聞いています。そして、英語で教える科目数も増えてきました。それも「グローバル」です。

それに、秋田大学の学生は世界中に留学しています。例えば、中国、カナダ、フィンランド、シンガポール、ケニヤ、アメリカ等、無事に学んで帰ってきました。短期留学と1年間の留学の両方、2回留学をした学生も沢山います。秋田大学の留学生はキャンパスに戻った後にも、海外の経験の良い思い出について友達と大いに語り合います。だから、会話内容と感想も「グローバル」です。

残念ながら、2020年にコロナ禍が発生しました。海外留学や海外の学生の秋田大学への留学は全て中止になりました。2020年度、秋田大学はまだ「グローバル大学」でしょうか。はい、グローバルです。秋田大学には沢山の国際言語科目があるので、学生の外国語の勉強と国際的な思考が可能です。海外からの研究者や教員もまだいます。ですから、秋田大学には今もグローバルな雰囲気があると感じています。



秋田大学 国際交流関連データ

■国際交流協定校数（2021年2月末現在）
大学間協定（32カ国・地域64大学）
部局間協定（18カ国・地域30学部等）

■留学生数（2020年10月1日現在）
学部生 100名
大学院生 79名
交換留学生・研究生等 27名
合計 206名

